（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和四年七月十二日　（金曜日）　聲　城　新　聞　第二千九百八十二號（一）

（十一日夕刊）

休刊　大祭第一第三日曜
定價（壹粁二錢、壹ケ月壹圓（五十錢、郵稅十錢）
廣告料（二行半錢指定廿錢增）

發行兼編輯印刷人　瀧沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　聲城新聞社
電話五六四番

梅雨空の感想

（上）

平田哲

來燕

燕がいつやつて來か氣付かずにゐて笑はれたことがある頭痛がして二三日寢込文「プロレタリア文學の大衆性と大衆化」についての雨に誘はれてふと——燕は、未だ來ないのか——と窓に首をひつかけてみたが電線にも軒端にもその影はなかつた雀が鼠のやうに地面を走つてゐた。エルンストトラーが燕の詩を書いた、それを讀むものはいつも「自由に憧れ」る獄窓の同志を思ひ出す。床を出て街をゆく人に齒切れのいゝ聲であいつが話しかけるのだ。

——遠かにポストに戻れ？

若い燕があるぞ」後家さんの若い燕と」等と云ふことはもう昔話になつた、若い燕は近頃はしきりに後家さんよりは犬やスパイに追ひかけられてゐるのだ、若い燕は敏捷に大膽に闘爭しやすやすと渡り鳥だ！

米刀と力

梅雨の空、鬱陶しい中を虎かライオンに席を譲つ出中義一、「俺が張子の虎だと云つたかどうかは知らないがそんなことは無い係」彼は張子の虎だ、酒口雄幸は定評通りライオンだどちらにしろ百獣の君臨、如何われ〳〵一新一支配階級　マネキンガールノうち、さぁ〳〵書籍糸〳〵引くのが三井で三菱、ふうプロレタリアートにとつては頼りがい雇はれてゐるマネキンお替しかまでゞ、ゞ傳かゝ自由、やゝ吳にそゝちや、ふ、……彼は「一九二八、三、一、き、一、を、し、と、ブロレ激貧されてゐるも、だ、プロレタリアートにだ！ブルジョア壻がどうほめたつそんなことに頓着せずに。

榮蟹工船その他

小林多喜二　優れた力作

死を超ゆる者

小說

三上於菟吉作

（34）

布施平八郎畫

深夜の罪惡（一）

彼れは友達　飲み屋

彼は「一九二八、三、一、き、一、を、し、と、ブロレ

タリア文學が何處から生れるかをはつきり示した。そして又中央公論七月號の論文「プロレタリア文學の大衆性と大衆化」についての彼の意見をきけ！如何に彼が政治と藝術とを巧みに統一しつゝ優れたる理論家蔵原林を始め平林勝本等々を乘り越えてその摑み得ざるものを摑み具体的な作品行動との連關に於てそれを見てゐるかが知られるだらうこの時青野季吉を筆頭とする「文藝理論家」は穴を掘り始めてゐるにちがひない！

又プロレタリア作家への道を進む若きインテリゲンチアが續々としながら「文壇」を流門しつゝある昨今の危險性に對しても彼は明確に答へてゐるではないか

レコードハ此のマーク！を

店員募集

肉聲のビクターレコード販賣店　會田時計店　平町四丁目（電話三六三番）

小供洋服生地

今夏の新柄が澤山揃いました
相かはらず御用命の程
御願い申します

各女學校御用達

平町　田町

ハシモトヤ糸店

營業種目

內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負　其他

㊧ 佐藤材木店

常磐線平町新川町
電話三三五番

內科、小兒科　入院應需

花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町
電話平局五〇七番

電氣吹込　新製法

オリエントレコード

（新譜）大阪行進曲（兩面一枚）（金一圓也）

逢ふにや明るし道頓堀はジャヅに浮かれて人目を忍ぶ甘い酒のみや橋の上に芝居もどきの月が出る

蓄音器の修繕は安く良く安く

特約店　大谷時計病院

電話一九番

◉診療開始

耳鼻咽喉科專門

日本醫大醫學士院長　鈴木正男

齒科口腔外科

日本齒科醫學士科長　高橋正永

◎晝夜診療

下谷區入谷町二九一

入谷改正通り東交番前六間通り

鈴木醫院

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地がありますから流失其も完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員がに伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社　平出張所

電話　六〇三番　五四一番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

製菓　末廣

電話四二一

醫藥學大家實驗證明せる

腎臟病　新藥　ネオフロン

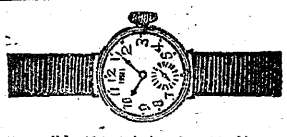
急性及び慢性腎臟炎に服用して最も優秀なる効果顯著なり　價格　一圓五十錢、參圓、五圓

平町五丁目角

代理店　山野邊藥局

藥劑師　山野邊東次郎

優秀なる最新型腕卷時計



蓄音器　眼鏡　クジヤク印蓄針特約店
各種レンズ　鐵道省
各國時計　御用
ダイヤ輪
指輪
裝身具

金光堂時計店

平町五丁目　電話壹六番

貴金屬御注文製作品早く良奉仕的特價に致します

小名濱商港の修築工事 遂ひに中止の命令出づ
地方民の努力一朝に葬られ 濱口内閣呪ひの聲

小名濱商港の實現は本縣産業開發上至大なる好響を齎らすものとして地方民は勿論縣民が幾多の努力と犠牲を捧げ漸く着工の運びとなるや突如民政黨濱口内閣の出現により緊縮主義の餘沫と政略的犠牲に供せられる惧れあり地元小名濱町は急據委員を上京せしめ比佐代議士その他民政黨關係者と共に工事中止の阻止運動中であつたが昨十日午後に至り築港計劃を放棄するか又は繰り延べにするかの最後の決定を見るまで全然仕事を休止する樣内務省から命令を發するに至り過去幾十年懸命なる地方民の努力によつて築かれた同港は一朝にして葬り去られんとする運命に立ち至つた事は地方民の損失計り知る可らざるもあり一方石城郡民政部會では濱口内閣の手で斯くの如き擧に出でられる事は民政黨の面目と人氣に至大なる關係あり比佐代議士外有志の猛烈なる運動を見るものの樣に觀測されてゐる

小名濱港の中止は 平町の大損失
同じ運命の平上水道 遠藤平町助役談

平町では今後に於ける町勢の伸展膨脹を見越し三十五萬圓の町費を計上して例の浮水場源地、水路排水の全部に亘つて本年度から一大擴張工事に着手する計劃の下に是が工費豫算の起債認可を當局に出願中であつた折から突如として新内閣が財政の大緊縮案を發表した爲め遂に上水道起債並に補助は必然的に握り潰しにされる運命に陷つたのを極度に狼狽し伏見町長代理遠藤助役は九日急遽上京、内務省國債課長を訪ひ政府當局の認可方針並に平町の出願した前記上水道起債の認可は緊急を要する問題であるから促進されたいと陳情其他各關係方面の認可促進運動を爲し歸平したが遠藤助役は語る

上京して直ぐ内務省に出頭國債課長に會ひ政府當局の認可方針を伺つたが内閣の方針中町村財政に對してはどの程度の緊縮を斷行するのであるか、未だ確定してゐないとのことで要領を得なかつたが若し小名濱港同樣悲しむべき結果を見るに至らば實に由々しき問題である、小名濱港の工事中止は平町の消長に至大な關係を有してゐる即ち東京市に横濱あり大阪に神戸の如く平町も小名濱港實現により得る至大な利益を考へる時誠に遺憾に耐へぬ事である」云々

金解禁の話
七七銀行 山田平支店長談

民政黨内閣が出來上るやいなや第一に叫ばれたことは金輸解禁の四字であります、政府はこれを根本政策として、國家の經費節約を一般國民の勝手もとの緊縮を奬勵してゐます、これは各家庭にもいゝ影響を與へ一齊に節約に向つて進んでゐる樣ですが、扨この金解禁とは何ういふことかといひますと、どうも一部家庭の人達には解つてゐない樣です、で、これを極簡潔に說明しますれば我國で金の輸出を禁止したのは歐洲大戰後の不景氣襲來時代に對する一時的應急處置として行はれたもので、その

理由 といふのは若し禁止せぬと正貨がドシ〳〵外國へ流出するため、國内の正貨が減少しその當然の結果として物價が低落し、事業は不振となつて經濟的に不況となるので、これを防止しやうとしたのです、しかし、これは一時的變則な方法で、何時かは解禁せねばならぬものだと云ふのは、輸出禁止の儘では、外國爲替相場は何時迄も安定せず、又國内の通貨を適度の量に止めて置く事が出來ません、たとへば、日本の金貨百圓の中には、純金二十匁が含まれてゐますが、これは米國貨幣四十九弗卅二分の廿七の中に含まれてゐる量ですから、日本の百圓は、それ丈に相當する譯で此數字を法定平價と云ひます、そこで金の輸出が自由であれば、爲替相場は此法定平價で釣合ひがとれる譯ですが、禁止されてゐる爲め、現金で受取るべき代金を手形で受取ると同樣になります、そこで百圓の

手形 も先方の信用程度で、九十圓とか八十圓とか或はそれ以下でなければ通用しなくなります、現に大震災の翌年（大正十三年）には紐育の日本爲替相場は卅七弗臺（約七十四圓）に下落した事があります、それで禁止さへなければそんなに下落した場合正貨を輸出して、百圓の金貨を百圓に通用させる事が出來ます、是が大問題となるのも、各國間に貿易が盛んに行はれる爲めで、即ち輸出輸入の双方の分丈はどうしても正貨で支拂はねばならぬので、其爲め在外正貨と云ふものゝ準備があり、それが尠くなると、政府の手で正貨を現送したり外國債を募集したりするのです、この在外正貨といふのは、官廳などの鐵や其の他の外國品を購入する場合、それに支拂ふ金として外國の銀行に預けられてゐる金のことです、この解禁を行ふにはどうしても時機があります、つまり、輸出よりも輸入が超過してゐる場合、金解禁をすれば、金は

海外 に流れ出し、ひたゞしい不景氣が襲來します、そのため輸入をなるだけ少くし金の流出が自然に少くなるので、それには物價を安くすることが肝要で、さてこそ一般國民の節約となる譯なのです、皆さんも出來る限り、節約して、この不況時代を切りぬけねばなりません、そしてやがて來る金解禁を出來る限り無難にすることに心がけるべきです（文責記者）

鮫川江も 絶望
濱口内閣の出現で大狠狽

石城郡小名濱町外一町四ケ村よりなる鮫川疏水普通水利組合では既報の如く鮫川江筋の復活を計劃しこれが事業費捻出方法として鮫電側から十萬圓提供を交渉しその解決を待つて縣並に國庫補助を得て明年度事業として着工する豫定であつたが鮫川電側との交渉が長引き未だ解決せざる今日政變のため新規事業の目安が付かず五年度事業としてのこの豫定工事も頗る怪しくなつたので同組合では非常に狼狽し善後策に就きそれ〴〵協議を重ねてゐる

若し明年度豫定事業としての同工事が延期或は中止となれば同江筋に六百餘町歩の水田を有する各町村殊に小名濱玉川村方面の打撃は殊も甚しいので相當問題化するのではないかと見られてゐる

小名濱港に 棧橋
平監督所工事

小名濱漁港内の第二防波堤附近長さ百間幅四十間に亘る海底は波浪のため砂が堆積するので平土木監督所では陸上より防波堤に棧橋を架け砂を浚渫してゐたが、此の程防波堤先端に五千圓を投じて木造棧橋を施設したが、この棧橋は漁船等の繫留に便利であるため來る十五日入港する軍艦五十鈴に便乗する舟付き場に借受けたいと同町青年團から願出て來たので許可する事になつたが同所附は海水浴客に賑つてゐる

僕は大丈夫だ
當分は平にゐたいと 岡部平稅務署長談

平稅務署長岡部掬氏の榮轉說がひきりに傳へられ仙臺か米澤の稅務署長に確定せるかの如く眞實らしく噂をなしてゐるが右につき岡部署長を訪ひば全然否定し「イヤ全く無根の風說に過ぎぬ、判任官の移動は既に發表されたが阿部、畑仲兩課長とも何の動きもなく一ト安心をした譯です、ナニ米澤が、稅額から見ると平より多いが餘り感心出來ぬ、僕は當分平にゐたいから動かさないで呉れと司の方にも言つて置いたから大丈夫だヨ」と語つてゐたが氏は秋田縣橫手稅務署より着任以來六ケ年に及び歷代署長中稀れの名署長で民衆の氣受けよく移動の無からん事を地方民は望んでゐる

磐城中學校の プール
八月中に竣工

平町磐城中學校では御大典記念のため事業計劃中の處愈々在校職員、生徒が四千圓を出費して一大プールを設置する事に決定し今月下旬に着工し八月中には完成する見込みであるが設置場所は選定中で大体運動場にする筈である同プールは長さ二十五米幅十五米で水深は四尺乃至九尺であると

一の矢祭典
あす御臺境の賑ひ

石城郡内郷村大字御臺境に祀る一の矢神社の祭典は例年明七月十二日（陰曆）六月八日行はるが毎年參詣する善男善女は遠近より雲集し頗る雜踏を呈する參詣人は農家が多く慣習として胡瓜を奉納するのでその胡瓜の賣上代價で祭典費其の他の事業に充分である

濱通穀檢事務

濱通り各穀檢支所事務研究會は二十日午前九時から小高出張所内に開催、縣から小野技師、北川技師臨席する

石城の桃出廻る
早生物で一錢五錢位 平町の市場相場

平町の果實店の店頭には夏のはしり物がポツ〳〵現はれて來たが今市場に現はれたのは早生物のモヽばかりで値段は最上で一個五錢から五厘位までである是らは主に平窪村方面からで同村果實組合はモヽ、畑八町歩を有し年々二萬圓位の收入を見て縣外水戸方面まで販路を占め二三日中にはアワムヌ等のモヽが出廻るが同組合で產出するのはタナカ、タチバナ、天すゐ等の種類があり天すゐは過般來からの旱魃のため結實の成績を憂慮されて幾分減收するものと觀られてゐるので郡農會では技術員を出張せしめて果實類の耕作法虫害豫防其の他に就き指導してゐる更に郡農會では今月末頃同組合のモヽ、立木品評會を開催し優良なるモヽの產出を計る筈で郡内一般にも此の如き會を開き益々改良をなして栽培を奬勵すると

△△△△△ 舟漕ぎ競走
鮫川村の名物

石城郡錦村鮫川誘揚會主催にて來る十四日鮫川橋より下流佐糠邊迄の間において舟漕競爭を開催するが、數十艘の舟入れ亂れての競走の事とて今から非常な人氣を呼んでゐる

磐中 夏季水泳
一般の參加も可

磐城中學校では例年の如く小名濱に於て夏季水泳をなすが期間は八月二十五日から一週間の豫定で會員は百五十名位に達するらしく一般からも會費一圓で入會出來る筈で希望者は至急申込むべしと

郡南調査講習 植田

錦、山田、泉、渡邊、川部の一町五ケ村農業調査員講習會は四日午前九時より植田小學校を開場として縣より石川萬次氏講師として講習員百五十餘名、頗る盛會であつた

石城地方の 夏蠶
廿日頃に掃立

石城郡内の春蠶は澤渡、川前、永戸方部が農終蠶で數日後には約く四千貫位の生繭が上る筈で夏蠶は早くも三坂村方面は來月十日頃掃立になるらしく豫想されてゐるが二十日前後には全城の掃立がなされるものと觀られてゐる

植電磐東總會 植田

植田町磐東銀行株主總會は來る廿四日午前九時から同行に開會し植田町植田水力電氣會社株主總會は廿四日午後一時から磐東銀行に開會

磐中主催の 夏季講習

磐城中學校同窓會主催の第六回受驗準備夏季講習會は來る二十四日より十二日間毎日午前七時半より十一時半まで磐中校舍で開會する學科並講師は左の如し

（數學）梶原富次（英語）舘野發三郎（英語）豐口欽哉（漢文）山崎宣吉（國語）山名隆貞（數學）渡邊恒夫の諸氏で入會者は會費一圓五十錢で二十二日まで山崎敎諭宛申込まれたいと

磐城實銀總會 平町

平町四丁目磐城實業銀行では來たる廿一日午後一時から同行に株主總會を開き本年上期の營業成績を附議する筈

磐新塔

▲石城郡地方には隨分色芭蕉が植てあるが氣候か土壤の關係か兎に角結實した例が殆どないので、單に植木として植られてゐるのであるが、バナヽがなつた言ふ珍しい話がある▲好間村大字大舘大林寺の境内にある芭蕉は毎年十一月頃花が咲いてゐたのであるが、今年は何うした加減か六月の初めに花が開き而も約三十本程のバナヽが結實して美事にぶらさがつてゐる▲バナヽのぶらさがつたのを實際に見た事のない者か、之は珍しいと毎日押かけて見物してゐるさうだが天候の調子でバナヽがなつたものらしいと

鈴木縣議出福 縣會

縣會議員鈴木辰三郎小名濱町長鈴木榮兩氏は加勢前知事送別會に出席の爲め十一日朝九時で出福した

神谷齒科醫院 平町

平町古鍛冶町神谷辰夫氏は日本齒科醫學士で東京に於て實地を研究中の處今回同所に開業した

平驛祝賀會
今明二日間の催し

平驛はすべてモダン型に竣成し十日には町内招待者の竣成祝賀會を同驛階上會議室に催したが今十一、二日は驛員一同の祝賀會を催したが改築工費は契約工費四萬七千八百圓に追加費として二千四百圓であつた

本紙記事に動き 藤市君發心
確かに私の父ですと 平役場へ申出づ

本紙昨夕刊所報——福島市役所が行路病者として收容中死亡した爲め假埋葬に附した北海道生れ原谷藤吉は臨終に際し長男原谷藤市が平町柳町一番地に居住してゐる旨を遺言したので福島市役所では埋葬料八圓五十錢の徵集方と遺骸の引取方を平町役場に依賴して來たので町役場から前記藤市に右の旨を傳へた處そんな父は知らないと頑强に情を張つて取り合はぬので眞實の親子かそれとも赤の他人かにつき迷つてゐる旨所報したが右藤市は本紙記事により悟る所あり今十一日午前九時平町役場の庶務課を訪れ「私は三歲の時父母に別れその後は孤獨の前半生を送り全く父の顏も知らぬ爲め一時否認したが磐城新聞紙上で原籍その他の關係を見れば正しく私の父に相違ないと信じますので葬儀料は勿論私が仕拂ひします」と申出で更らに僧侶を賴んで懇ろな法事をする事となつた

かみくづ

◆藝者も新規チョイ〳〵相當殖へてると思ふと間違ひでチツトも數が增さないとのことだ。これは始めは藝者の如く終りは脫兎の如く消へてしまうので、アヽラ怪しやなと貸のあるのが騷ぐ時分には何處かお座敷をつけてる爲めなさうだ◆それに景氣の惡いのにも似合はず、ボテと來て腹の方を擴張して休んでるのもあるらしい、それが料理屋の女中にまで傳染して、競爭で腹をセリ出してるのだからまるで狸の腹つゞみの展覽會のやうだとサ◆一の井で夏向きの座敷が綠濃い木立の客を待つてゐるそれを鶴は千年の緣起から鶴の間と名付けた處がイタヅラなお客は藝者がお客を釣るの間ぢやないかは上出來

◇十二日ヨリ上映プログラム◇

市川右太エ門映畫（松竹提供）
原作・山口天龍・監督・長尾史錄入社第一回作
寬文年鑑 **水野十郎左エ門** 全
助演・中村吉松・高堂國典・巴蝶子・梅田菊造
德川四代寬文の頃でした、四谷六方白柄組水野一味と實俠を事とする町奴と意氣地と張りの賣出した柳橋の名妓とを綴る名作

松竹蒲田大作◇ 原作・脚色……清水宏
柳さく子・藤野秀夫……主演
悲曲 **海に叫ぶ女** 全
助演者・國島莊一・久米順子・其他
弟の爲に其の身を賭して其の生涯を淚に送つ柳獨點久方振りに見る大悲劇です

原作……大佛次郎氏
監督……辻吉郎氏
サンデー毎日特輯號所載
半身
葛木香一・酒井米子
楠英二郎・横山運平
尾上桃華・森田肇
母を異にせる兄弟がある勤王と佐幕新思潮の……外來維新開化の潛行運動時元治元年七月會津城跡になく憂愁の士
土・日曜學生デー 中學生二〇 小學生一〇
平館

◇近日映東京行進曲沓掛時次郎◇

急告

市田公債部加入者對策協議會開催致スニ付奪テ御來集相成度候

時日 七月十一日（午後七時）時間勵行
會場 紺屋町 扇屋旅館樓上

有志一同

加入者各位

開業披露

齒科
口腔外科
齒科一般

平町古鍛冶町八八（平公園北入口）

神谷齒科醫院

日本齒科醫學士 神谷辰夫

營業種は 石炭 コークス 玉炭

磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ（商標）ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス

平驛前
（商標）**阿部石炭商店**
電話二三七番